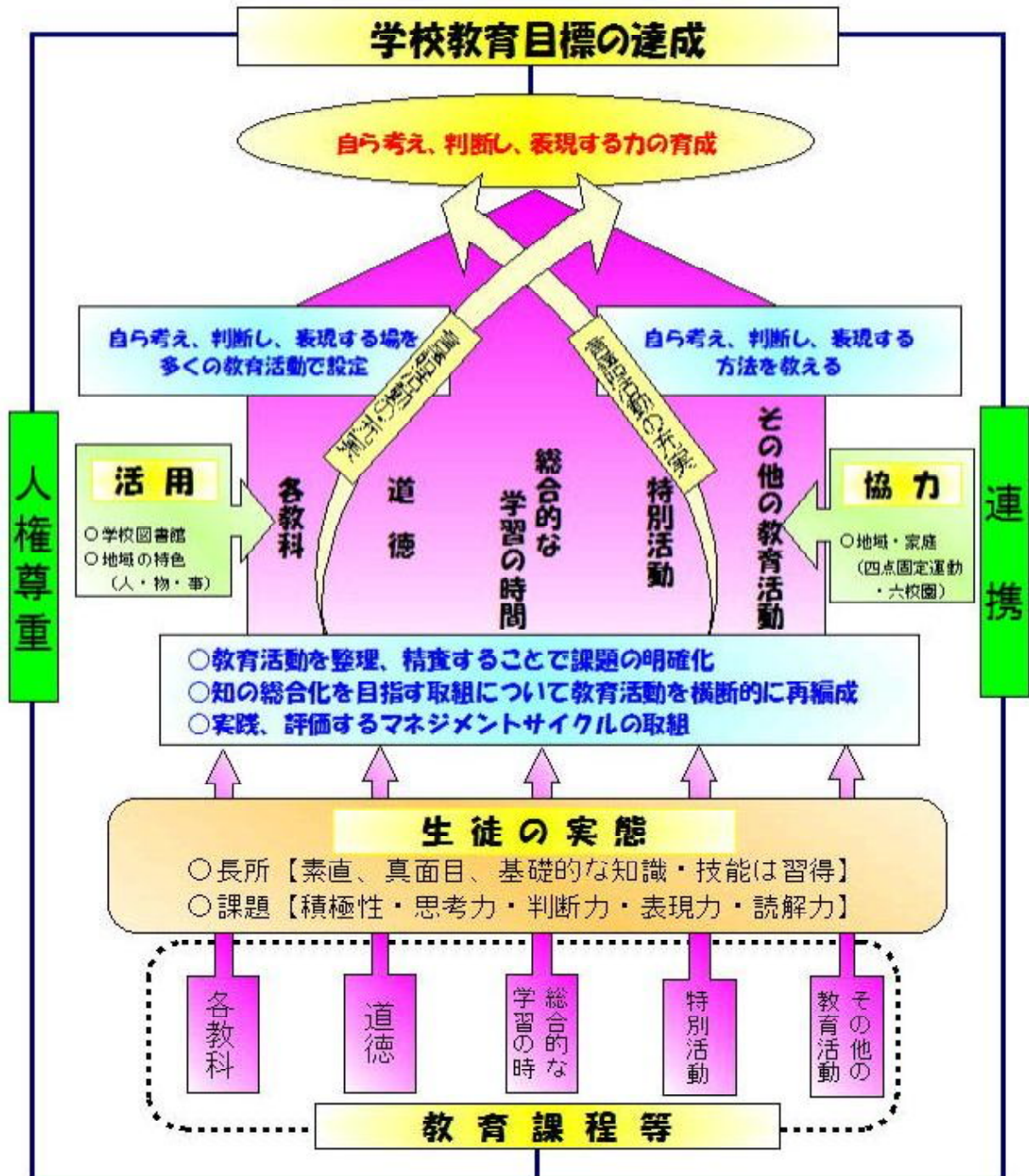


管内名	八代	学校名	八代市立第二中学校
-----	----	-----	-----------

◆ 学力向上に向けた学校全体としての取組
(言語活動の充実を通して)

◇ 構想図



◇ 取組の実際

1 日常的な指導

(1) 言語スキル学習の取組

総合的な学習の時間を使って、言語スキル学習に取り組んだ。時間は、毎週木曜日の8時15分から8時40分までの時間を使って行った。内容は、はじめは下記のように新聞記事などを読んで、感想と自分の意見を書かせた。そして、その意見を班で伝え合い、話し方をお互いに評価をさせた。

(原稿) 7月23日 水曜日

◎友達の発表を聞いて思ったことを書きなさい。

やはりみんな日本とアメリカとの食についての意識の違いとかかたどきやはり改めて食について考えなければいけないと思った。

◎この文章を読んだ感想を自由に書きなさい。また、あなたは食品を買うとき、何か気をつけていることがありますか。

アメリカ人は日本と違って消費期限の切れそうな食品を買って新鮮な食品はほかの村の人たちにおとこう記事をよんでアメリカ人は食べ物に大層に気をつけてるし作ってる気持ちはみんなを気をつけて他の人の気持ちは考えろと思ってた。でも日本は記事に書いてあるように消費期限の長い食品を買っている。最近食品がどうとかが多いから、日本人も改めて食について考えなければいけないと思えました。


(原稿)

評価表 A: とてもよい B: だいたいよい C: もう少し

名前	声の大きさ			蓋さ		
	A	B	C	A	B	C

(2) 1分間スピーチの取組

全クラスで、帰りの会等の時間を使って1分間スピーチに取り組んだ。スピーチの原稿も「はじめ・なか・おわり」という構成を考えて書かせた。また、話し方、聴き方のポイントも毎回黒板に提示して、定着を図った。スピーチを聴いた後には、聴いた人全員が「お返しカード」を書いて、製本して本人に渡し、双方向のコミュニケーションを図った。


お返しカード ()より()へ 

☆私はこちら思ったよ ☆スピーチを聞いて心に残ったこと

①声の大きさ
() 小さい)

②話すスピード
() 速い 遅い)

③スピーチの内容
() た もう少し)

■■■ がいいー 本当にやる気なだけだよね
 思っています ■■■ がいったあと2つのコト
 は ■■■ は やれてないなあ...
 でも、■■■ もがんばってるんだよね。
 ■■■ をがんばるから。 

《聴く》スキル

目標：考えを深める聴き方をしよう

- 1 **話題**を意識して聴こう
- 2 **目的**を持って話を聴こう
- 3 **話の流れ**を意識して聴こう
- 4 自分の意見と**比較**しながら聴こう
- 5 自分の考えを**お返しカード**で返そう

《話す》スキル

目標：わかりやすい話し方を目指そう

- 1 場にふさわしい**声の大きさ**、**速さ**を心掛けよう (1分間で300字が目安)
- 2 **聞き手の反応**を見ながら、語りかけるように話そう
- 3 大事なところは**強調**し、印象づけよう
- 4 体験などを入れ、**自分らしさ**を出そう

(3) 読書活動

① 朝の読書活動

読書活動の充実を目指して、朝の読書活動に取り組んだ。月に一度、各学年で読書週間を設けて、朝自習の時間（8時15分から8時35分）に読書を行った。月ごとに本のテーマを決めて、テーマにあった本を自分で探して読むようにした。毎週火曜日には、保護者の方に読み聞かせボランティアとして協力してもらい、各クラスで読み聞かせをして頂いた。



② 読書活動で地域と交流

読書活動を通して、地域との交流も図った。昼休みの時間帯（13時20分から13時40分）に、本校に隣接する太田郷幼稚園に中学生が読み聞かせに行った。読み聞かせの本は、地域の図書館から読み聞かせ用の大判の絵本を借りて行った。園児とも絵本を通して交流ができ、幼稚園の先生方にも好評であった。生徒も日頃の言語活動の成果を発表する機会にもなり、いい経験になった。



2 授業力を高めるために

ア 全員研究授業の実践

「教師の授業力向上＝生徒の学力の向上」という共通理解の下、実践を行った。大研においては、反省を生かすために映像として記録に残しておいた。

イ 指導案の工夫

(ア) 熊本型授業の実践を通して生徒の学力向上を目指すために、「能動・徹底」の表記を徹底した。

(イ) 本時の展開の学習活動の中に、「言語活動の充実・話し合い活動の充実・話す活動の充実・書く活動の充実」を表記した。

ウ 授業の評価について

本校の教育目標の達成や校内研修テーマの関連等を位置づけ、参加者全員に研究授業評価指標を記入してもらい、授業者の授業反省に生かした。

< 指導案展開例 >

< 授業評価指標例 >

5. 本時の学習

(1) 目標

・不定詞を用いて、行動の理由や目的を表現できる。

(2) 展開

過程時間	学習活動【言語活動の充実】	能動徹底	形態	
導入 7分	1 挨拶をする		一斉	○大
	2 既習事項を使って対話練習をする	能動	ペア	○ペ
展開 5分	3 新出文型を理解する He went to Jusco to buy glasses.	徹底	一斉	○絵
	4 本時の目標を知る		一斉	○黒
2分	不定詞を使って、行動			
10分	5 不定詞の口頭練習に取り組む	徹底	一斉	○ス
18分	6 インタビューをする 【話す活動の充実】	能動	個人 グループ	○机 目 (目)
5分	7 不定詞の練習問題に取り組む 【書く活動の充実】	能動	個人	○机 目 (机)
まとめ 3分	8 本時の学習を振り返る		一斉	○本 目 ○確

研究授業評価指標					
平成()年()月()日()曜日()校時					
室()学年()組 教科名() 指導者()					
4 よい 3 ややよい 2 もう少し 1 努力を要する					
評価項目	評価	気づき			
学習指導案について	単元についての考察	4	3	2	1
	単元の指導案	4	3	2	1
	指導計画	4	3	2	1
	評価計画	4	3	2	1
	本時の目標	4	3	2	1
	本時の展開	4	3	2	1
生徒の変	学びと授業に臨んでいたか	4	3	2	1
	学びと行動はつながったか	4	3	2	1
	学びと生活はつながったか	4	3	2	1
教師の姿	学び開始・学び終了	4	3	2	1
	発問・指示・質問	4	3	2	1
	板書・黒板	4	3	2	1
	指導法	4	3	2	1
本校研究テーマとの関連	読むこと	4	3	2	1
	書くこと	4	3	2	1
	話すこと	4	3	2	1
熊本型授業実践のために	課題の提示と把握	4	3	2	1
	徹底指導の場面	4	3	2	1
	前向き学習の場面	4	3	2	1
板書・資料提示	読み、ほめ、息ましの有無	4	3	2	1
	文字の大きさ、見やすさ	4	3	2	1
	思考の流れとの対応	4	3	2	1
書く位置や色彩	書く位置や色彩	4	3	2	1
	その他(感想など)				

記録者()

3 生徒の変容

これらの実践を通して、言語活動を充実することができた。具体的には、「読む」活動では、読書活動に興味を持ち、全体的に読書量も増えてきた。「書く」活動も、総合的な学習の時間を使っての言語スキル学習や一分間スピーチなどの取り組みで、自分の考えを書くことに慣れてきて、書く速さもついてきた。「聞く」活動も、自分の意見を書くために、考えながら聞く姿勢が見られてきた。「話す」活動については、言語スキル学習で「話し方」を学び、一分間スピーチなどで、実際に自分の意見を伝えることを多く経験してきて、話し方も上手になってきた。また、教師も、言語活動を意識して教育活動に取り組むようになってきた。